資料６

関係者用

役割・グループワークの流れについて（案）

〇集合時間

１３：１５　～　多職種連携研修作業部会メンバー

※順次，ファシリテーターと各グループの司会者との顔合わせ

〇ファシリテーターのペア

ペア①　〇〇様，〇〇様　　ペア④　〇〇様，〇〇様

ペア②　〇〇様，〇〇様　　ペア⑤　〇〇様，〇〇様

ペア③　〇〇様，〇〇様

〇役割分担

- 総合司会　　〇〇様
- GW 司会　　〇〇様
- 懇親会司会　〇〇様（会場誘導係）
- 受付　　〇〇様，〇〇様
- 会場誘導係　〇〇様，
- マイク係　　〇〇様，〇〇様（会場誘導係）
- カメラ係　　〇〇様，〇〇様（会場誘導係）

・会場誘導係：　〇〇様，〇〇様，〇〇様，〇〇様，〇〇様，〇〇様

- 会場内担当（〇名）：迷っている方へ声がけ（GW 席，聴講席）
  座席に，名札と資料があることを伝える
- ホール担当（〇名）：クロークは２階会場向かいにあることを伝える
  駐車認証機の声がけ
  ＊２階の場合は３時間まで無料，２階以外は２時間まで無料
- 名札ブース担当（〇名）：聴講の方へ名札を持ってもらうように声掛け
  聴講席の場所の声がけ
  資料は椅子にある事を伝える
- マイク係：〇〇様，〇〇様
  グループワーク発表が始まる 16 時 25 分前に，担当者２名はマイクを持ち，
  それぞれの場所で待機。発表グループ順にマイクを届ける。質疑応答時間があり，
  発言者がいれば，その方へマイクを手渡しにいく。
- カメラ係：〇〇様，〇〇様
  研修会開始後より，開会・閉会挨拶者や会全体の写真を撮っていく。
  グループワーク時は，各グループの写真を撮れれば撮っていく。
  懇親会時も全体の写真や参加者の写真を撮っていく。

グループワークの進め方

〇グループワークのねらい

・医療・介護・障がい福祉それぞれの立場から，日頃の連携における課題や困りごと，難しさを出し合い，互いの立場や現状への理解を深めるとともに，分野を越えた連携に向け課題を共有する。

・一人ひとりが地域でその人らしい生活を続けられるよう，医療・介護・障がい福祉が互いにどのような連携が必要かを考える。

〇グループワークの内容

・（テーマ１）自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて
（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと，または上手くいった連携，事例を聞いた中での気づき等）

・（テーマ２）テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール，機会があればよいのか，どう連携していけば良いのか，明日から自分たちができそうなことは何か等）

・上記のテーマ１・２について司会者を中心に進行してもらい，書記が模造紙に記入する

・発表グループは，テーマ１・２及び質問があれば話してもらう

〇多職種でのメンバー構成，各グループに司会者をあらかじめ設定する

〇タイムテーブル

１５：２０ （５分）	**＜グループワーク　テーマ１（KJ 法）＞** **〇個人ワークについて説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分** **〇個人ワーク開始** ・テーマ１について付箋に書き出してもらう ・医療・介護・障がい福祉別に色分けした付箋は机上に人数分配置 （医療：黄，介護：青，障がい福祉：赤） （テーマ１）自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと，または上手くいった連携，事例を聞いた中での気づき等）
１５：２５ （30 分）	**〇自己紹介からグループワークまでの流れの説明（グループワーク司会：〇〇様）：２分** **〇各グループ内で，自己紹介：４分（１人２０～３０秒程度）** ・司会は，予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える ・自己紹介（所属先，職種，氏名） ・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう ・書記，発表者を決めてもらう **〇グループで共有** ・一人ずつ付箋を出し合いながら個人ワークで考えたことを共有 ・同じような意見はまとめる（グルーピング） ・時間があれば，まとめたグループごとにタイトルをつける
１５：５５ （30 分）	**＜グループワーク　テーマ２＞** **〇グループワーク　テーマ２の説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分** ・グループワーク　テーマ１でグループ化した課題について，テーマ２に沿って検討 （テーマ２）テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール，機会があればよいのか，どう連携していけば良いのか，明日から自分たちができそうなことは何か等）

１６：２５ （30 分）	**〇グループワーク発表・意見交換～総評（座長：川口先生）** 各登壇者：大場先生，小谷様，原田様，松川様，水上様，藤枝様 ・事前に打ち合わせた順番でグループ発表。詳しくは，（発表グループの選定を参照） ・発表内容は，テーマ１・２及び質問 座長の進行で，発表内容または質問に対し各登壇者からコメントをもらう ・総評及び感想 座長，各登壇者からコメントをもらう

〇模造紙と模造紙半分の用紙のイメージ

- テーマ１の模造紙には，個人ワークで記載した付箋を貼り，グルーピングする。
- テーマ２の模造紙には，テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方について記入する。
- 模造紙半分の用紙には，登壇者や座長に聞きたいことを記入する。

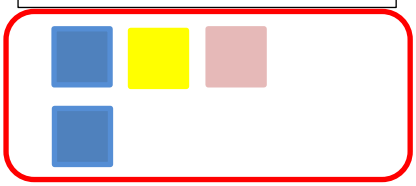
＜模造紙＞

「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて
つながるあらたな一歩
～知ろう！語ろう！繋がろう！～」

（テーマ１）

自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと，または上手くいった連携，事例を聞いた中での気づき等）

顔の見える連携ができていない



相互理解が不足

（テーマ２）

テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール，機会があればよいのか，どう連携していけば良いのか，明日から自分たちができそうなことは何か等）

＜模造紙半分の用紙＞

質問用紙

登壇者，座長に是非，聞きたいことがありましたら，こちらに記載してください

〇ファシリテーターの役割

【テーマ１】連携における課題や困りごと等を出し合う

◆個人ワーク時に，記載内容に困っていたら介入する

・今現在，参加者の感じていることを出してもらうよう促す。
・自職種または自身の視点からみた連携における課題や困りごとについて，医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や，自身の経験の中で感じる課題や困りごと，連携がうまくいった経験，事例を聞いた中での気づき等を出してもらえるよう促す。
・「こんなことを課題として出してよいのか」「自分だけが感じていることかもしれない」と思うようなことでも，まずは付箋に書き出してもらうよう促す。
・付箋に書く手が止まっていたら「日頃，他の職種に聞いてみたいと思っていることはありますか？」「連携するときに，もう少しこうだったらいいのにと思うことはありますか？」「逆に，連携がうまくいった経験はありますか？」など，具体的な問いかけを行う。

◆個人ワークの内容を共有

・グループでの話し合いが止まっていたり，発言できていない人がいる場合は，必要に応じて介入する
・グルーピングに迷っていたり，タイトルに迷っていたら，不正解はないので思ったままで良いことを伝える。

【テーマ２】必要な連携のあり方・これからできることを考える

・テーマ１でグルーピングした一つ一つの課題等について，必要な連携のあり方や，明日から自分たちができそうなことを考えられるよう促す。
・「どのようなツールがあればよいか」「どのような機会があればよいか」だけでなく，「今あるものをどのように活用できるか」「どんなことだったら始められそうか」について考えてもらう。・自身が実践していることだけでなく，他の参加者から出された提案について「自分の職場・立場ではどこまでできそうか」など，具体的に考えてもらう。
・職種によっては経験したことのない場面について話し合うこともあるため，登壇者の事例や他の参加者の経験・意見を参考にしながら，自分の立場に置き換えて考えてもらえるよう促す。
・意見が「できない理由」の話に偏った場合は，「もし条件が整うとしたら，どんなことができそうですか？」，「今の状況で，少しでもできそうなことはありますか？」など，「できること」に視点を戻す問いかけを行う。

【全体として気をつける事について】

・「〇〇職はこうだ」「〇〇の事業所はこうだ」など，個人の経験が特定の職種・事業所全体の話として一般化されないよう配慮する。特定の職種・事業所等への批判や批評にならないよう，必要に応じて，「個々の職種や事業所を評価する場ではなく，連携について考える場として話してみましょう」など，話題を本来のテーマに戻す。
・専門用語の説明やレクチャーが長く続く場合は，適切に介入する。例としては，「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「その話題（疑問）について聞きたいことが出た場合は，全体の意見交換の時間に確認してみてはどうでしょうか」など。
・特定の人が話し続ける状況があった場合は，他の参加者にも意見を聞くなど，できるだけ参加者全員が話せるよう配慮する。発言が少ない人に対しては，無理に発言を求めるのではなく，答えやすい質問や付箋に書いた内容をきっかけに参加しやすいよう声をかける。

・意見が対立した場合は，どちらが正しいかを判断するのではなく，「なぜそのように感じたのか」「それぞれの立場ではどう見えているのか」を整理し，相互理解につながるよう支援する。
・ファシリテーター自身が答えを出したり，意見をまとめすぎたりせず，参加者同士で考え，意見を整理できるよう支援する。時間を意識して，テーマ１の意見出し・整理からテーマ２の「必要な連携」「これからできること」へ，無理なく話し合いが進むよう促す。

【発表グループの選定】

① ファシリテーター２人がペアになってもらい●～●グループを担当します。
② 各担当グループのうち，ねらいに沿った話ができているグループや，ぜひ全体で共有したいと思われるグループをペアのファシリテーターと相談して１グループを選定する。
③ １６：１５（グループワーク終了１０分前位）になったらファシリテーター席に集まり，選定グループを報告（全５グループになる予定）
④ ファシリテーターと座長，センター間で相談して，発表してもらう順番を決める。（時間があれば全５グループ，時間がなければ３グループ程度）

※全体で共有した方が良いと思われる質問等があった場合は，意見交換の場面で対応する旨を伝え，発表に当たったグループは，シンポジスト，座長に聞きたいことについても話してもらう。当たらないグループは，後日センターのホームページにて掲載する旨伝える。

【見　本】

○ファシリテーター

ペア：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

選んだグループ番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

選んだポイント：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

グループ内の司会者用

グループワーク進行上のお願い

〇ファシリテーターと司会者との顔合わせ

・各グループを担当するファシリテーターがいます

・司会者が進行する中で困ったらファシリテーターへ声を掛けてください。

〇テーマ

（テーマ１）自職種または自身の視点からみた連携における課題や困りごとについて
（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと，または連携が上手くいった連携，事例を聞いた中での気づき等）

（テーマ２）テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方や明日から自分たちができそうなことは何か（どのようなツールがあればよいのか等）

〇タイムテーブル

１５：２０ （5分）	**＜グループワーク　テーマ1（KJ 法）＞** **〇個人ワークについて説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分** **〇個人ワーク開始** ・テーマ１について付箋に書き出してもらう ・医療・介護・障がい福祉別に色分けた付箋は机上に人数分配置 （医療：黄，介護：青，障がい福祉：赤）
１５：25 （30 分）	**〇自己紹介からグループワークまで流れの説明（グループワーク司会：〇〇様）：２分** **〇各グループ内，自己紹介：４分（１人２０～３０秒程度）** ・司会は，予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える ・自己紹介（所属先，職種，氏名） ・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう ・書記，発表者を決めてもらう **〇グループで共有** ・一人ずつ付箋を出し合いながら個人ワークで考えたことを共有 ・同じような意見はまとめる（グルーピング） ・時間があれば，まとめたグループごとにタイトルをつける
１５：５５ （30 分）	**＜グループワーク　テーマ２＞** **〇グループワーク　テーマ２の説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分** ・グループワークでグループ化した課題について，テーマに沿って検討
１６：２５ （30 分）	**〇グループワーク発表・意見交換～総評（座長：川口先生）** ・座長進行のもと発表グループに選ばれた場合は，（テーマ１）と（テーマ２）と もし質問があった場合は，それも合わせて発表する ・発表グループに選ばれなかったグループも質問がある場合には挙手する

〇付箋について

・医療・介護・障がい福祉別に色分けた付箋は机上に人数分配置。手に取っていない方がいたら，取ってもらうよう促す。（医療：黄，介護：青，障がい福祉：赤）

〇グループワークの進行について　***別紙「グループワークのルール」参照**

・グループ内で話しやすい雰囲気となるように別紙「グループワークのルール」に記載されている内容を参考にして進めてください。常にこのルールを意識できるようにテーブルの上に置いてもらったり，口頭で伝えたりしてください。
・グループ内で１人の方が話し続けているようであれば声掛けをしてあげてください。（「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「他の方のご意見も聞いてみましょう」等）

〇模造紙と半分の模造紙について

・テーマ１の模造紙には，個人ワークで記載した付箋を貼り，グルーピングする。
・テーマ２の模造紙には，テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方について記入する。
・模造紙半分の用紙には，シンポジストや座長に聞きたいことを記入する

グループワークのルール

〇グループワークを円滑に進めるために下記のことを心掛けましょう。

テーマに沿って話しましょう

話が脱線しても

必ず（テーマ１）と（テーマ２）に戻りましょう

みんなで話しましょう

「こんな事話していいのかな」と思わずに

どんどんお話ししてください

経験の有無に関係なく イメージしてみましょう

もしも自分だったら，自分が支援するとしたら

などを想像してみましょう

批判・否定しないようにしましょう

グループ内の人の発言にネガティブな

判断をしないようにしましょう